

同

文學士 三輪田 元道

▲一般の世人は未だ幼稚園と云ふものゝ眞義を知らず、自分の子供を幼稚園に遣らうかよそうかと疑つて居る人は大分ある様であります。何故世人の一般が左様な考を持つかと思つて調べて見ると、一つは幼稚園と云ふものに對して頗る高尚過ぎて解釋をして恰も或部分に於ては一般の學校と同じく學術の一部を教授する所であるかの様に思つて居るのと、今一つは全く無智無盲で幼稚園其物を知らないからであります。幼稚園を以て學校と同様な仕事をするものと見ると云ふ誤りは今日まだ一部の有識者中にもある様です。フレール氏が幼稚園即ちキンデルガートンと云ふ命名をしたのは決して一般の學校と同様な教授をしようとする

ていはなくて植物が花園に於て成長するが如く彼等 幼児をして遊園の中に嬉々たる遊情を満足せしめ彼等を自然に近くることに依つて爛熳たる無垢の發達を遂げしめんがためであります。

▲随つて幼稚園に庭園とか遊園とか云ふものは本來設備せらる可き筈で是がなくては幼稚園の名に負くものと云はなければなりません。然るに今日盛んに幼児を收容して保育を行つて居る市内の某々幼稚園の如きは數坪の遊園は愚か花園の一壇もなく、況して兎や小鳥などは藥にしたくも影さへ見えぬと云ふ有様だそうです。是では逆も幼児保育の本旨には適はぬことと思ひます、或參觀者が小供は何處で遊ぶのですかと聞いたならば室内で遊ばせると答へたそうですが市内には斯様な所が數多くある様に思ひます。土一升金一升の都會として

は仕方がありませんが今少し何うにか方法が
 そうなものであります。

▲若し何うしても遊園の都合がつかず小供を室内
 のみで遊ばせる事になるとすると何うしても保母
 の指揮する共同の遊嬉が多く時間を取り、其間
 とも子供の中には不相當に餘りに友達が多くご
 たくもみ合つて居るので幼児の神經は精一杯に
 興奮緊張して遂には頗る過敏になる恐れがあり、
 延いては早熟の弊も生じはしないかと思ふ、殊に
 保母其他の人が安りに小供の言行のませて手技の
 好妙なるを希ふ様なことでもあると一層其害は烈
 しい様に思ひます。是は極めて危険の事と云はな
 ければなりません。

▲それで私は何處迄も幼稚園は其名の如く幼兒
 をして天然に近づける方の設備を完全にしてはし

十二
 いと思ひます。嬉々として笑ひ興する中に自然の
 發達を遂げると云ふのが兒童の本性で此本性を充
 分發揮せしむるには又夫に應ずる丈の設備が要る
 筈であります。且つ今日普通の動植物類の名稱位
 は兒童が學校へ入學する前、不知不識の中に知ら
 せて置きたいと思ひます。

▲要するに今日の世人が幼稚園を嫌ふものは幼兒
 が幼稚園に入つて益過敏となるを忌み家庭の設
 備の充分なるに依頼して之を避くるが爲めと一つ
 には幼稚園を學校と見做し、強いて修學せしむる
 程の年齢にもわらねばと躊躇するに因るのだらう
 と思ひます。夫れですから今後は益幼稚園は學校
 にわらずして全く幼兒を愉快に遊ばしむる處であ
 ると云ふ考を世人に知らしむる必要があると思
 ひます。

▲或人は幼稚園は幼児の遊び友達を得るために必要無く可からざるものだと云ひますが是は一面大に真理のある所で尤もの議論でありますが併し夫れにしては今日の幼稚園は頗る友達が多過ぎると云はなければなりません、従つて兒童に因つては却つて餘りに刺戟の多いのに恐れて幼稚園を嫌ふと云ふ様なこともある様です。故に此議論ばかりでは幼稚園必要の絶對理由とは云はれませんが此他に天然に親しみ天然に近づかしむる所の習慣を不識の中に養ふと云ふことが幼稚園必要の大なる理由とならなければなるまいと思ひます。

▲私は門外漢で幼稚園の内容に就ては餘り能くは知らないけれど兎に角今日の幼稚園は一般に學校に近づいて居て幼児の遊樂と云ふことには餘程自由を束縛して居りはしまいかと思ひます。

御土産と子供

芙蓉生

▲大人が外より來れば直に「御土産」をとねだる子供がよくあるので、或一部の人は御土産は悪い習慣である。子供に絶体に廢さなければならぬそして家族の外より歸宅した時は勿論客人の始末て來た人などに御土産の催促がましい事などあつては以ての外であるから、よく氣を付けてそんな物をはしならぬ様せねばならぬと云ひますが是等も所謂角を撓めて牛を殺すの類ではありまいか

▲成程子供に御土産は動もすれば斯る面白からぬ結果を生ずることもありませうが併し夫れも遣り方次第だらうと思ひます、父母其他の人が外へ出れば必ず御土産を買つて歸つて、そして子供に「是が御土産だよ」と麗々と知らしめつゝ物を與